

学校評価シート（自己評価）

松山南

幼稚園

1、園の教育目標

(教育方針)

心身共に健全な幼児の発達のために適切な環境のもと集団生活を通して幼児の自主性を育み豊かな人間性を養うべくこの時期に必要な諸能力の開発を助長し時代の変化に対応できる未来の子どもを育てる幼児教育を推進する。

(教育目標)

丈夫なからだで元気よく、豊かな心でたくましく、みんなと仲良く遊べる子

2、具体的な目標や計画

(重点的に取り組むべき目標や計画)

令和5年度は園の行事等に多人数の参加ができる内容へと少しずつ変わってきたことから子どもたちが活動を楽しみにのびのびと活動できるように、事前に計画を立てて活動を予想し展開していく。また、様々な経験や活度を広げていくなかで友だちとの関わりを広げ自信へとつなげていく。

3、評価項目の取組及び達成状況

評価項目	結果(※)	結果の理由
I 保育の計画性	A	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に決まっている活動に向けて計画的にしっかり準備をすることができた。 ・子どもたちの成長や発達段階に応じて週単位、月単位で計画を立てて実行することができた。
III 保育者の資質や能力・良識 適正	A	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもやクラスのことので気になること、また必要なことはすぐに、報告・連絡・相談をしている。 ・子どもは教師の言動や行動をよくみて聞いていることから模範になるよう丁寧で優しい言葉を選んで使うようにし、意識して感謝の言葉を伝えるようにしている。 ・一人ひとりの子どもの様子をよく観察し多方面から考え気持ちに寄り添っていくこともできた。

V 地域の自然や 社会とのかかわり	B	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園生活での様々な経験が10の姿として幼稚園以降につながっていくことから自分の力で頑張りぬく力や他者との言葉のやり取り、関わりが身につくよう心がけている。 ・高校生の就学体験やボランティアなどから子どもと関わる仕事に興味を持ってもらえた。 ・近くの箭弓神社に歩いてどんぐり拾いやお参りもしてきたが、そこで会った方たちに元気に笑顔で挨拶する姿が見られた。
VI 保育者の専門性に関する 研修・研究への意欲・態度	B	<ul style="list-style-type: none"> ・比企地区の研修会では事前に資料に目を通し研修会中も自分の意見を伝えたり、他者の意見を吸収しようとした。 ・遊具や教材の使い方を理解し危険の予測をし、安全に過ごせるよう心がけてきた。 ・近くの小学校の授業をみたり、一年生との交流を図ることができた。

4、具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度はコロナ禍で制限されていたことが少しずつ解除されてきたことで行事の内容も学年単位から全体での内容に変わり、運動会、お遊戯会、はもとより七夕会、クリスマス会、おひな祭り会も全体での活動となり、他学年同士の関わりが持つ活動に幅が広がり、互いに刺激になったようだ。また、それぞれの行事の振り返り反省、次年度に向けての話し合いなど共有し保育者同士の連携の必要性も感じられた。 ・保育参観を3学期に、一家庭2名までの入室で行ったがほとんどの保護者が2名ずつ参加された。子どもの園の様子をみて頂くことで安心されることが多かったが年度初めの学期にも参観や保護者面談をとり入れることでより家庭との連携がとりやすくなると思う。 ・今年度は学園内で教員の研修会を1学期末2学期末に行い、自園の特色について、保育実践上の悩みや解決、行事の計画についてのテーマで協議した。経験年数により、捉え方に温度差を感じたので意見交換の重要性を感じた。

○結果(※)について

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取組が不十分である

5、今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
I 保育の 計画性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全体での行事や活動が増えたことから、今年度の反省や記録を生かし全教員同士が連携しそれぞれの行事や活動を見直し計画をたて、準備から無理のないように進めていき業務量と質の改善を図っていく。
IV 保護者への対応・ 守秘義務	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者からのアンケートから幼稚園との連携が他の項目より低く年齢が小さい学年ほど低い。面談の機会を増やし園生活の様子を伝えていき信頼関係を築きながら安心して園に送り出してもらうようにする。 ・ 指導要録の記入は電子データでの入力になってきているので園内で業務時間内に行うものとし、家には持ち帰らない。
V 地域の自然や社会 とのかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園外保育も少しずつできるようになってきたことから地域の自然や機関を利用した内容の計画をたて、子どもたちが興味関心の幅を広げていく。 ・ 運動会などの行事を通して小学生が遊びに来れる環境を設けていく。 ・ 就学予定の小学校との交流を深め就学に対する不安を取り除き自信をもって入学できるようにする。
VI 保育者の専門性に 関する研修・研究への 意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園庭、保育室などの環境について教育的な意味を理解し保育に生かしていくとともに子どもたちの安心安全の危機管理についての在り方をひとり一人の保育者が興味関心を持つようにする。

学校評価シート（学校関係者評価）

幼稚園 学校関係者評価委員会

日 時 2024年3月28日（金）

時～時 （時間）

出席者 評価委員（4）人

評価委員（4）人

1. 自己評価で設定した目標・計画、評価項目の設定は適切であったか

令和5年5月より、新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことから行事の内容も学年単位から全体での内容に変わり社会活動の幅を広げることができるようになった中で設定した目標・計画・評価の設定は適切であったと考える。

2. 評価結果の内容は適切であったか

制約があった中で、真摯に保育に向き合っており、設定した目標・計画・評価項目に従って適切な結果であったと考える。

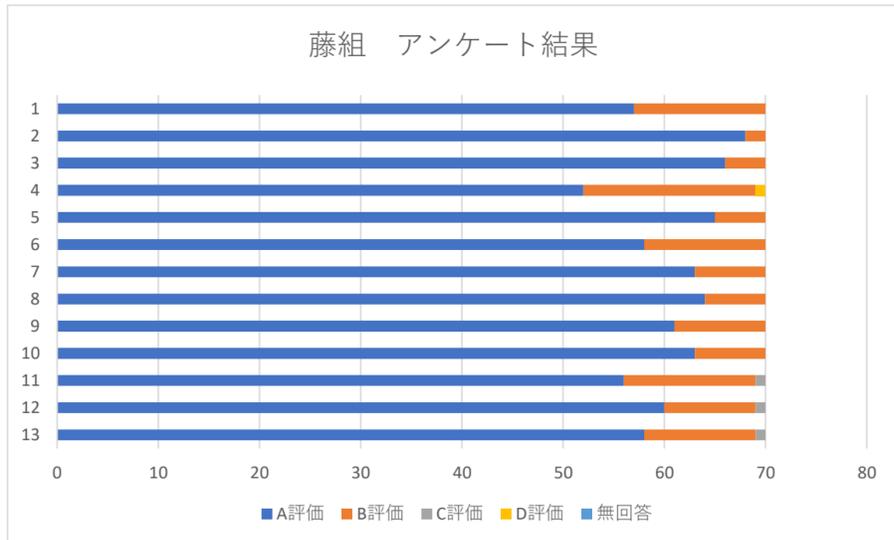
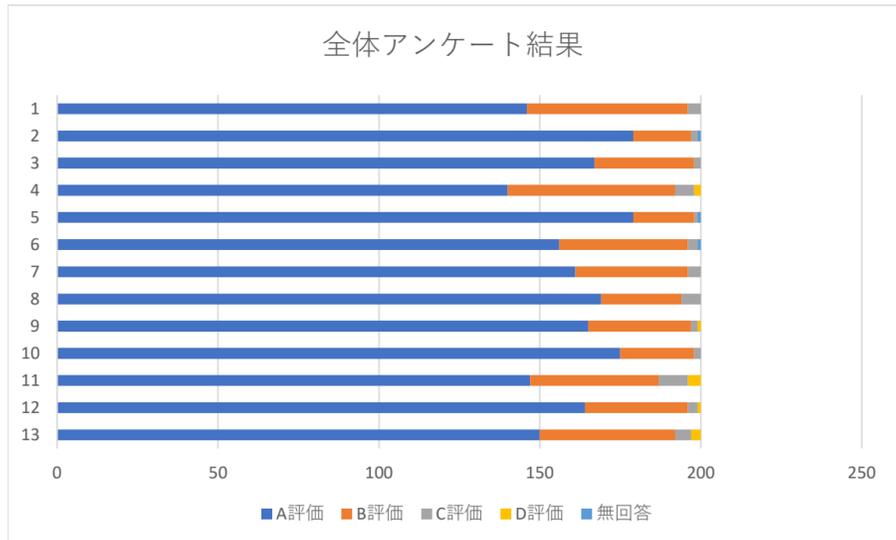
3. 今後取り組むべき課題は適切に設定されているか

外部と関わりが持てるようになってきている中で、積極的に小学校との関わりを持とうとしたり、今後取り組むべき課題が適切に設定されていると考える。

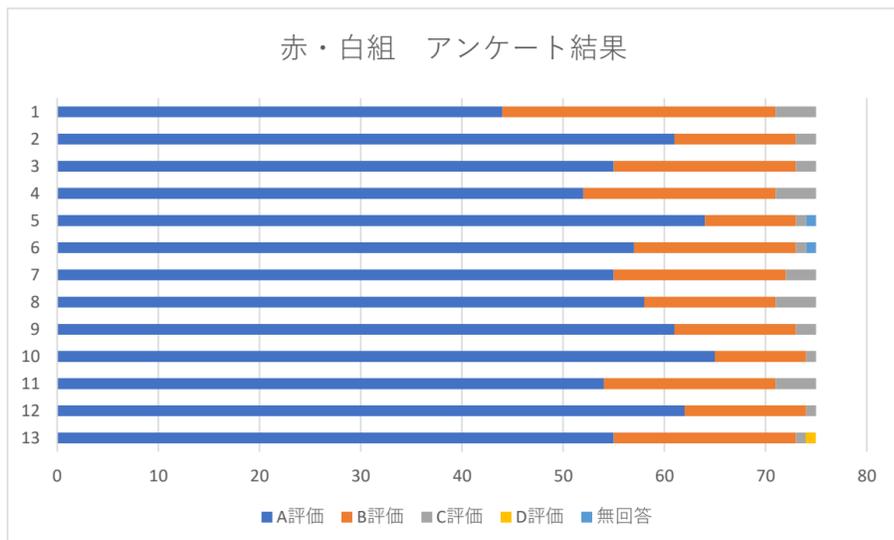
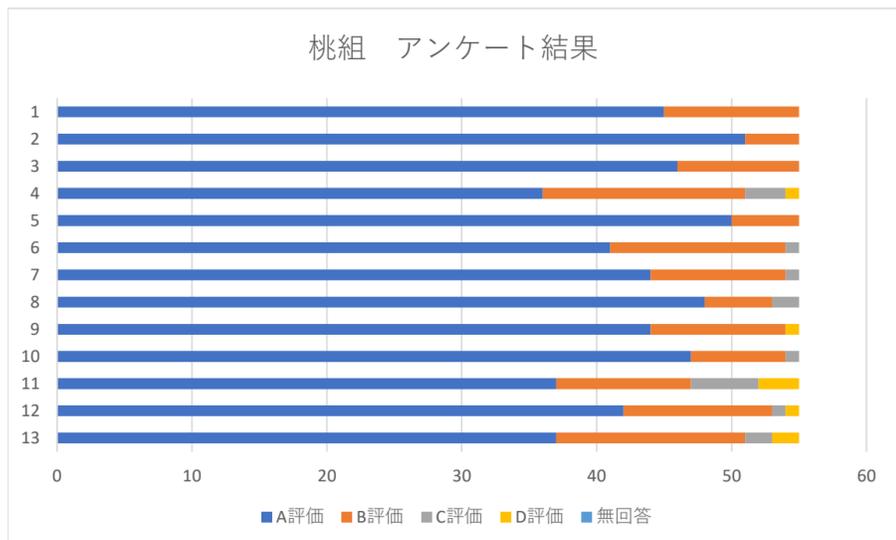
4. 今後取り組むべき課題は適切に行われているか

新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことで、園の行事に参加できる保護者の人数が増えたり保護者が園の様子をみることができるようになる機会が増え、その中で今後取り組むべき課題が適切に行われていると考える。先生方の業務量の改善等更に働きやすい環境になってほしいと考える。

自己評価にあたって保護者アンケート結果



- | 番号 | アンケート内容項目 |
|----|-----------------------------|
| 1 | お子さんは幼稚園に行くのを楽しみにしている |
| 2 | お子さんは先生を慕っている |
| 3 | お子さんは幼稚園で友達との関わりを楽しんでいる |
| 4 | お子さんは幼稚園の出来事を家で話している |
| 5 | お子さんは諸行事に喜んで参加している |
| 6 | お子さんは幼稚園生活で自主性がめばえたと思う |
| 7 | 教師は子ども達の良い所を見つけ伸ばそうとしている |
| 8 | 教師はお子さんの幼稚園生活をよく見ている |
| 9 | 教職員はお子さんの健康や安全確保に努めている |
| 10 | 幼稚園の雰囲気は明るい印象が感じられる |
| 11 | 幼稚園と保護者の連携がとれている |
| 12 | 幼稚園は環境設備に配慮している（園舎・園庭・遊具など） |
| 13 | 幼稚園のおたより、通信などわかりやすく伝えている |



自己評価結果

項目番号	大分類	中分類	項目	達成率
I-1-①	保育の計画性	1.園の教育理念・教育方針の理解	園の教育理念や教育方針を理解し共感している	76.00%
I-1-②			園の方針、園長の考え方について園長や主任と話し合い保護者に説明できる	72.00%
I-2-①		2.幼稚園教育要領・保育所保育指針の理解	幼稚園教育要領、幼児の姿や環境の構成、保育者とのかかわりなど具体的な事例を思いうかべることができる	77.00%
I-3-①		3.教育課程の編成と評価	園の教育課程は、幼稚園教育要領・保育所保育指針をふまえて園の教育理念・教育方針に従い編成している	80.00%
I-3-②			1年間の子どもの成長を振り返り、教育課程を評価している	78.00%
I-3-③			園の教育課程は、社会状況や幼児の実態、地域性を考慮しながら必要に応じて見直しを行っている	67.00%
I-4-①		4.指導計画の作成	指導計画は、幼児の興味や関心、これまでの生活や予想されるこれからの生活などを考慮し作成している	85.50%
I-4-②			行事は、幼児の生活上の意義を十分検討した上で、指導計画に組み入れている	82.00%
I-5-①		5.環境の構成	指導計画に基づいて、幼児が主体的にかかわりたくなるような安全で清潔感のある環境構成をしている	82.00%
I-5-②			楽しい雰囲気の中で、安定して遊び込めるように遊具や用具、素材など質・数量を配慮して環境構成をしている	83.00%
I-5-③			幼児の活動がより豊かになるように幼児の発想を柔軟に取り入れ、活動の展開に応じて環境の再構成をしている	79.00%

項目番号	大分類	中分類	項目	達成率				
				0.00%	50.00%	100.00%	150.00%	
I-5-④			幼児の発達や生活を見通し、季節の変化に応じた環境構成をしている	I-5-④	75.50%			
I-5-⑤			異年齢の幼児が自然に交流できるような環境構成をしている	I-5-⑤	59.50%			
I-6-①		6.保育と計画の評価・反省	自分の保育と評価・反省について次の保育と計画に生かせるように行っている	I-6-①	82.00%			
I-6-②			お互いに保育を見せ合い、検討し、評価・反省を加え、幼児の生活と自らの保育につなげている	I-6-②	63.50%			
II-1-①		II 保育の在り方、 幼児への対応	1.健康と安全への配慮	朝の登園時は特に視診を大切に幼児の体調が悪くないかを確認している	II-1-①	90.00%		
II-1-②				体調が悪そうな時は静かに寝かせたり検温をするなど適切な処置を行いすぐに家庭へ連絡している	II-1-②	96.00%		
II-2-①	2.幼児のみとりと理解		幼児の話をよく聞いたり、言葉にならない思いやサイン、その姿の中にある心の動きを推察し、基本的欲求が十分満たされる様配慮している	II-2-①	88.00%			
II-2-②			一人の幼児をじっくりと見ながら見えない所で活動したり遊んでいる幼児についても、ある程度その活動の様子を推察することができる	II-2-②	80.50%			
II-2-③			個々の幼児の発達の姿や課題について見通しをもって理解できる	II-2-③	79.50%			
II-3-①	3.指導とかかわり〔心のよりどころとして〕			幼児一人ひとりを観察し、ありのままの姿を受入れ認めるようにしている	II-3-①	90.50%		
II-3-②				幼児との温かなやりとりやスキンシップを常に心掛けている	II-3-②	92.50%		
II-3-③				幼児の話をよく聞くようにしている	II-3-③	92.00%		
II-3-④				“一人ひとり”と“みんな”の関係を常に考え、クラス集団をまとめている	II-3-④	84.50%		
II-3b-①				幼児が遊びや活動を深めていくためのヒントやアイデアを提供している	II-3b-①	80.50%		
II-3b-②				幼児をほめたり、励ましたり、めあてをもたせるような言葉かけをしている	II-3b-②	87.50%		
II-3b-③				禁止、命令、行動を急がせたり、自信を失わせることばや態度はできるだけ控えている	II-3b-③	84.00%		
II-3c-①				幼児の家庭環境や、これまでの成育歴などを考慮してかかわっている	II-3c-①	85.50%		
II-3c-②				障がい児が入園した時、個別的対応やクラスの子どもとともに育ち合える保育を積極的に進めるように考えている	II-3c-②	88.00%		
II-3d-①				4.保育者同士の協力・連携		クラスに関係なく、その場にいた保育者が適切な言葉かけや対応をしている。また、情報を共有している	II-3d-①	88.30%
II-3d-②	指導上配慮を必要とする幼児については、園の保育者全体で特によく話し合い、共通理解をもって、工夫し対応するようにしている		II-3d-②			83.50%		
II-3d-③	他クラスや異年齢の幼児たちと触れ合うようさまざまな工夫、保育の形態を取り入れている		II-3d-③			70.00%		
III-1a-①	III 保育者としての 資質や能力・ 良識・適性 一専門家としての		1a.専門家としての能力	保育にたずさわる者として、専門知識や技能を身につけている	III-1a-①	83.00%		
III-1a-②				保護者に対し、幼児のことや自分の保育のことを分かりやすく話すことができ、保護者との信頼関係をつくることに努めている	III-1a-②	82.00%		
III-1a-③				保育者並びに他職員が仕事の手順を考え、能率よく行っている	III-1a-③	84.00%		
III-1a-④		保育者の人間性が子ども達に影響を与えることを自覚している		III-1a-④	91.00%			
III-1b-①		1b.良識とマナー		幼児や保護者との対応には、公平さを欠かないようにしている	III-1b-①	89.00%		
III-1b-②				朝と帰りのあいさつは明るく親しみを込めて行い、感謝の気持ちを言葉などで表わしている	III-1b-②	90.00%		
III-1b-③				園の消耗品や教材は節約して使い、私用に使っていない	III-1b-③	95.80%		
III-1b-④				服装、髪型、身だしなみなど、清潔感のあるものを心がけ、安全性にも気をつけている	III-1b-④	94.00%		
III-1c-①		1c.義務		教材、教具の管理、点検、園内外の清掃や整理整頓を実行している	III-1c-①	89.00%		
III-1c-②				締切りのある仕事や提出物の締切日、会議や打ち合わせの時間をきちんと守っている	III-1c-②	92.00%		
III-2-①		2.組織の一員としての在り方		他の意見を素直な気持ちで聞いたり、自分の意見を述べるができる	III-2-①	87.50%		
III-2-②				子どものこと、クラスの出来事などで必要なことは園長や主任に報告、連絡、相談している	III-2-②	93.00%		
III-2-③				当番や役割による仕事を理解し確実にしている	III-2-③	91.50%		
III-2-④				上司の指示、命令には責任を持って実行している	III-2-④	91.50%		

項目番号	大分類	中分類	項目	達成率				
				0.00%	50.00%	100.00%	150.00%	
III-3-①	能力	3.まわりを感じ取れる感性・アンテナ	幼児や教育・保育に関する情報を日頃から得ようとしている	III-3-①	78.50%			
III-3-②			社会情勢や季節の変化などを感じ取る感受性を大切にしている	III-3-②	80.50%			
IV-1-①	IV 保護者への対応・守秘義務	1.情報の発信と受信	一人ひとりの子どもについて、家庭での養育方針などを把握している	IV-1-①	66.50%			
IV-1-②			クラスだよりなどで、保育実践の内容や意図・クラスや子どもの様子を、写真やイラストなどを活用してわかりやすく伝える工夫をしている	IV-1-②	72.00%			
IV-1-③			個々の子どもの様子は、直接保護者と話をしたり、連絡帳、電話などを使って伝え合い共通理解を得るように努めている	IV-1-③	84.50%			
IV-1-④			子どもにとってよりよい環境づくりに努めている	IV-1-④	77.50%			
IV-1-⑤			保護者との情報交換の内容を、必要に応じて記録している	IV-1-⑤	85.50%			
IV-1-⑥			子育てや就労を支えるために、保護者の気持ちに配慮しながら接するよう努めている	IV-1-⑥	89.50%			
IV-2-①		2.協力と支援	保護者からのさまざまな訴え、要望、意見については安易に受けたり、断ったり無視したりしないで、園長や主任等に報告や相談をしている	IV-2-①	85.50%			
IV-2-②			必要な場合は、自園の問題の対応や手段について保護者に説明できる	IV-2-②	68.75%			
IV-3-①		3.守秘義務の遵守	教職員や園の批判を軽はずみにしたり、プライバシーについて他へ漏らしていない	IV-3-①	89.50%			
IV-3-②			秘密情報（保護者・園児等に関する個人情報、および園の運営上の情報、保育技術・保育計画等の情報）については園長の許可なく使用、開示、漏洩していない	IV-3-②	79.25%			
IV-3-③			秘密情報の記録が破損、改造されないように管理している	IV-3-③	89.50%			
IV-3-④			秘密情報の帰属は園または法人にある事を認識し、書類、電子データは持ち帰らないようにし、どうしても必要な場合は持ち出し届出許可書にて園長の許可を取っている	IV-3-④	52.00%			
IV-3-⑤			秘密情報の書類、電子データのコピーは施設長の承認を受けた物のみ、必要最小限にし、必要がなくなった場合は適切に処分している	IV-3-⑤	84.00%			
IV-3-⑥			秘密情報について新たに知りえたことについては、直ちに園長に報告している	IV-3-⑥	89.50%			
IV-4-①		4.対応上のマナー・良識	正しい日本語、丁寧な言葉と敬語を用いて話しかけ、相手の話も落ち着いてしっかりと聞いている	IV-4-①	84.50%			
IV-4-②			親しくなったからといっても、友達同士のような話し方をしていない	IV-4-②	89.00%			
IV-4-③			電話では、簡潔に要領よく対話する事を心がけている	IV-4-③	86.50%			
IV-4-④			保護者からの依頼や伝言等については、メモをするなどきちんと対応している	IV-4-④	92.00%			
IV-4-⑤			長期の欠席や入院等の場合には、見舞ったり、園やクラスの様子を伝えたりしている	IV-4-⑤	84.00%			
IV-4-⑥			保護者の国籍、思想、宗教により、また、子どもの性差、障害、個性差によって、区別、差別していない	IV-4-⑥	99.00%			
IV-5-①		5.クレームへの対処の仕方	保護者からクレームがあった場合は、まず謙虚にその話を聞き、園長に連絡、報告、相談している	IV-5-①	98.00%			
V-1-①		V 地域の自然や社会とのかわり	1.地域の自然・人々とのかわり	地域の人々と親しくあいさつや会話を交わしている	V-1-①	77.00%		
V-1-②				地域の自然や機関を指導計画の中で位置づけて活用している	V-1-②	47.50%		
V-1-③				子どもの医療や保健に関する問題および地域の住民から受けた子育て相談の内容について、相談および連絡先を把握している	V-1-③	61.00%		
V-1-④	実習生を受け入れるときは、意義や方針を理解し、指導的立場で接している			V-1-④	85.00%			
V-2-①	2.小学校との連携		園の保育内容が小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることを理解している	V-2-①	91.00%			
V-2-②			小学校の教育内容について理解するよう努めている	V-2-②	71.00%			
V-2-③			小学生が遊びにくることの出来る場（行事等を含む）を設けている	V-2-③	27.00%			
V-2-④			卒業した子どもの情報を得よう努めている	V-2-④	36.00%			
V-2-⑤			小学校が、園での子どもの育ち等について、どのような情報を必要としているか理解するよう努めている	V-2-⑤	71.00%			
VI-1-①			VI 保育者の	1.研修・研究への意欲・態度	研修会や研究会には自己課題をもって参加し、事前にその内容を確認したり自分なりの考えをまとめている	VI-1-①	66.00%	
VI-1-②	自分の保育については自己課題をもって計画と反省を行うとともに、保育のあり方や悩みについて他保育者や主任、園長と話し合っている	VI-1-②			69.50%			
VI-2-①	2.遊具・教材に関する専門	園の遊具や教材についてその特徴や基本的な使い方を知っている		VI-2-①	89.00%			

項目番号	大分類	中分類	項目
VI-2-②	専門性に関する研修・研究への意欲・態度	性の向上	園の遊具や教材についてどんな使い方をするのか、どのような使い方が危険か予測できる
VI-3-①		3.園内の環境に関する専門性の向上	園舎の構造（平屋、二階建て）や保育室・遊戯室の位置・大きさがどのような教育的な意味をもつか理解している
VI-3-②		性の向上	園庭や田畑、砂場、かくれ場所などの位置、広さなどがどのような教育的な意味をもつか理解し、保育に生かしている
VI-4-①		4.今日的課題に関する専門性の向上	子どもを取り巻くさまざまな状況について、背景・原因・実態はどうであるか興味・関心をもっている
VI-4-②			アレルギー・自立の遅れなど、最近多く見られる問題について興味・関心をもっている
VI-4-③			幼小連携の意義やあり方について興味・関心をもっている
VI-4-④			こどもたちの安心・安全に関する危機管理について興味・関心をもっている
VI-5-①	5.自らを高めるための学習	保育の専門知識や技能のほかに趣味や読書、ボランティア活動等にも関心がある	
VIII-1-①	おVIIIてける支援地域育に	1.自園の子育て支援事業の理解（全教職員）	地域開放(親子保育園体験日・行事など)について職員間で共通理解の上取り組んでいる
VIII-1-②			自園の子育て支援事業について理解し、利用者にパンフレットやおたよりでわかりやすく説明できる
VIII-1-③			親しみやすい雰囲気や心がけ、利用者に積極的に声をかけている

